

(40)

等に於ける沢ゆる基本的概念を説明することが可能となるのであるが、特に教育心理学に於ける重要な概念と思われるものを次々に説明してみよう。先ず推論化の分化段階が高次になるに従ってそこに対象にするより合目的な行爲が可能となり、かゝるより分化した推論化の活動が価値的な優れた行爲の意味に外ならぬのである。而して推論化を可能ならしめる十分条件は媒概念(B)の存在であり、かゝる発見された媒概念が知識の本来の意味であり、それは目的に対する要素因として要素知識の概念を以て表わすことが出来る。かゝる媒概念に基づく推論化的活動力(Agency)が能力(ability)の意味であり、要素知識に対し要素能力の概念を以て表わすことが出来る。かゝる媒概念は一分化段階に於て常に唯一に限られ、従ってそれに対する能力方向も唯一に限られる。ここに表々にかゝる要素能力と要素知識の同一次元に於ける質的一致の分化原則に基づき、優れた行爲を具体的な要素能力と知識の二つの概念を以て表すことが可能となる。

又主観と客観の意味が明かとなり、これら二つの契機から目的な活動(行爲)が成り立っていることに基づき、かゝる二つの契機から「類型の区分原理」に基づきパーソナリティーの現す基本目的な活動—所謂基本的要求—の方向類型を論理的に明にすることが可能となるばかりでなく、人間の誤り、間違行爲等の意味、情緒及性格の目的な活動に対する意味等も明となり、又学力基準、能力の発達段階区分に対する基準及行動類型を把握する方法等に対する根本理論と成るのである。

7. 虚言についての一実験

——誇張性・信頼性をめぐって——

お茶の水女子大学 白石 忍

この実験は、虚言を、誇張性・信頼性という側面からとりあげ、性別・社会性と劣等感との程度によって比較して、そこから何らかの傾向を見出そうとこころみたものである。

誇張性・信頼性及び劣等感については、牛島義友氏案の性格検査を用い、社会性については、ソシオメトリーによって、ヌター見と孤立見をえらび出した。被験者は、中学校三年生148名である。

結果の概要は次の如くである。即ち性別によって比較すると、誇張性